

上三川町は町村合併60周年を迎えました!!

昭和30年(1955年)4月29日、上三川町、本郷村、明治村が合併し、現在の「上三川町」が誕生しました。今年度、町村合併60周年を迎える上三川町。その町の姿を様々な角度から、1年間に渡りご紹介いたします。

第10回は、上三川町の防災・防犯です。町の各所で発生する災害や複雑化する犯罪に対応するため町の行ってきた取り組みを紹介いたします。

町の防災

上三川町が合併してから60年、上三川町はその歴史の中で、様々な災害を経験しました。平成26年2月の大雪や、平成27年9月の50年に1度と言われる大雨などは町民の皆様も、記憶に新しいところだと思えます。また、5年前の東日本大震災では上三川町も少なくない被害を受けました。それら以外にも、昭和45年には大雨・強風被害、平成23年には台風による田川の増水などの被害もありました。

上三川町では「上三川町地域防災計画」や「防災マップ」を作成、有事の際には役場庁舎や学校などに避難所を設けることで、それらの災害から町民の命や財産を守るための対策を講じています。

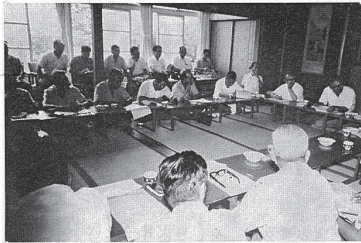


防災マップは役場の総務課で手に入ります

5

広報かみのかわ

昭和45年8月12日発行



(災害対策協議会)



(雹を受けたかんびょう)

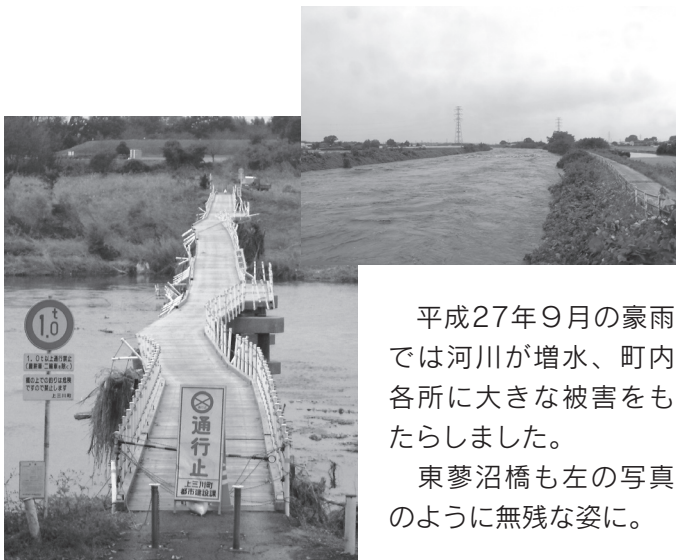
上三川町南部に タツ巻き発生

去る六日午後五時四〇分頃上三川町南部一帯に強雨が降り、これに続いてタツ巻が発生し、常光坊部落を中心に強い農作物及び住家等建物の全半壊等、甚大なる被害がありました。町は早速災害対策本部を設置し被害の実情を調査すると共にタツ巻による傷病者の取巻を行ない、同地域一帯は電柱はほとんど傾き、大きなけやき等は根こそぎ道路に横になり、交通は寸断され、停電により水道は止り早速対策本部では給水活動を

行い、これ併せて各被害の全ぼうが調査されると共に農の指導により農作物の防除方法及び営農指導等のリフレットの配付町議会は直ちに全員協議会による被害地域の実地調査と共に救助対策について協議をなし、国県に対し大雨雨タツ巻被害について陳情をなし

上三川気象調査によれば当日の降雨量は一二センチであり瞬間風力は約八〇単位と思われま

昭和45年には竜巻発生の記事。このときはひょうも発生し、大変な被害だったようです。



平成27年9月の豪雨では河川が増水、町内各所に大きな被害をもたらしました。東蓼沼橋も左の写真のように無残な姿に。



昭和57年の大規模な防災訓練の様子

町の消防

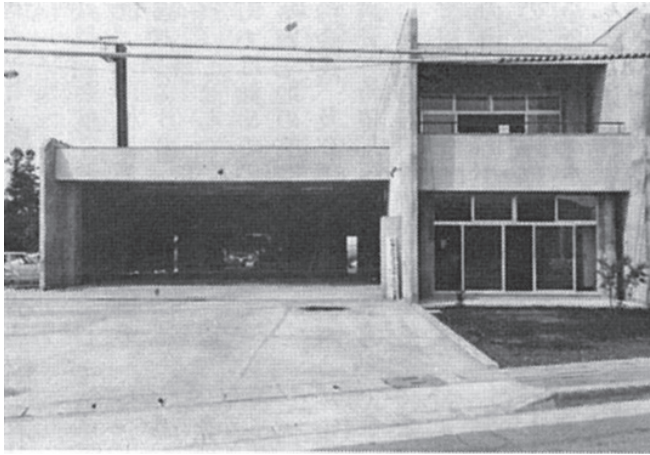
冬は暖房器具などで火を使うことが多く、空気が乾燥しているため、火事が起こりやすい上に燃え広がりがやすい季節です。町では町民の生命及び財産を火災から保護するとともに、災害の防除・被害の軽減を目的として、上三川町、下野市、壬生町の1市2町で石橋地区消防組合を組織しています。上三川地内にある上三川消防署は昭和47年に「上三川分署」として開所しました。40年以上も上三川町を守り続けていましたが、老朽化などの理由により、移転・新築することが決まりました。平成28年3月には新しい上三川消防庁舎が完成予定です。

また、普段各自の仕事をしながら、火災や災害が発生した時に出動をする「非常備消防」として「上三川町消防団」を設置し、火災発生時の初期消火、残火処理などのほか、大規模災害時には、災害の被害を広げないために様々な活動を行っています。

消防団は町村合併以前からあり、町の防災の一端を担っています。したが、合併により統合され、「上三川町消防団」として設立されました。



現在建設中の新上三川消防庁舎



昭和47年8月に完成した「上三川分署」



昭和59年に開催された防災教室。防災研究所所長の説明を聞く婦人防火クラブの皆さん。



防火訓練や消防演習などは町内各所で行われています。



消防団は火災以外にも水害など各種災害に出動します。

